

**学力調査結果について**

1 概要

【平均正答率】

	国語	算数	理科
泊小学校	66	63	65
鳥取県	64	62	63
全国	65.6	63.2	63.3

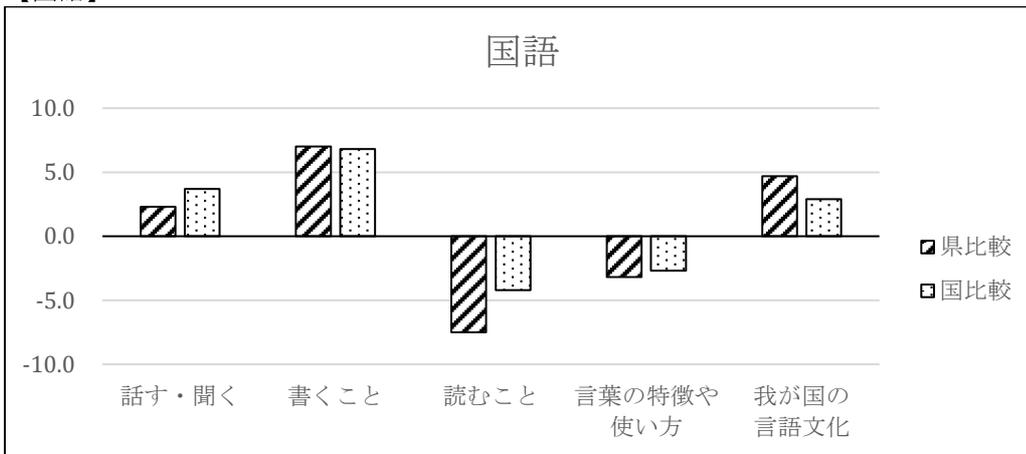
【平均正答数】

	国語 (全14問)	算数 (全16問)	理科 (全17問)
泊小学校	9.3	10.0	11.0
鳥取県	9.0	9.8	10.6
全国	9.2	10.1	10.8

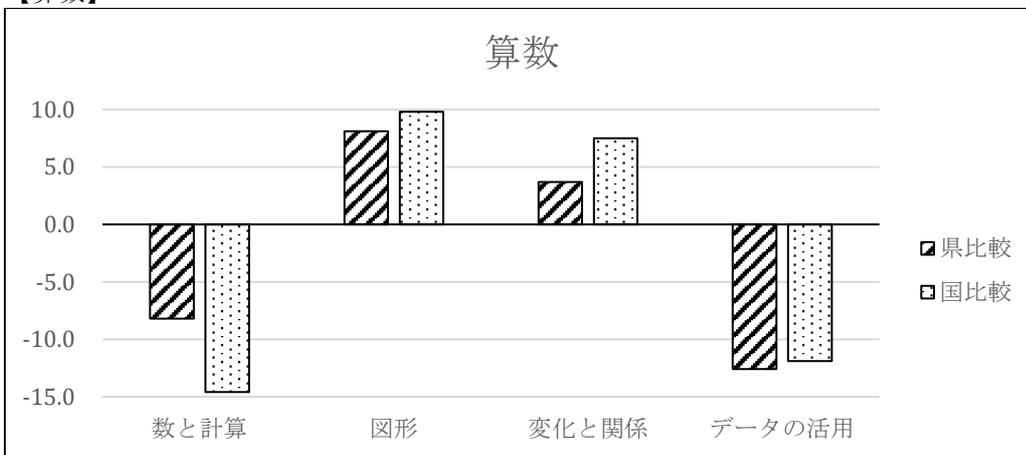
国語、理科では、平均正答率、平均正答数ともに、県平均、全国平均を上回った。算数では、平均正答率、平均正答数ともに、県平均を上回ったが全国平均は下回った。

2 領域別正答率比較（単位はポイント。泊小を基準（0 p t）としての県比較、国比較）

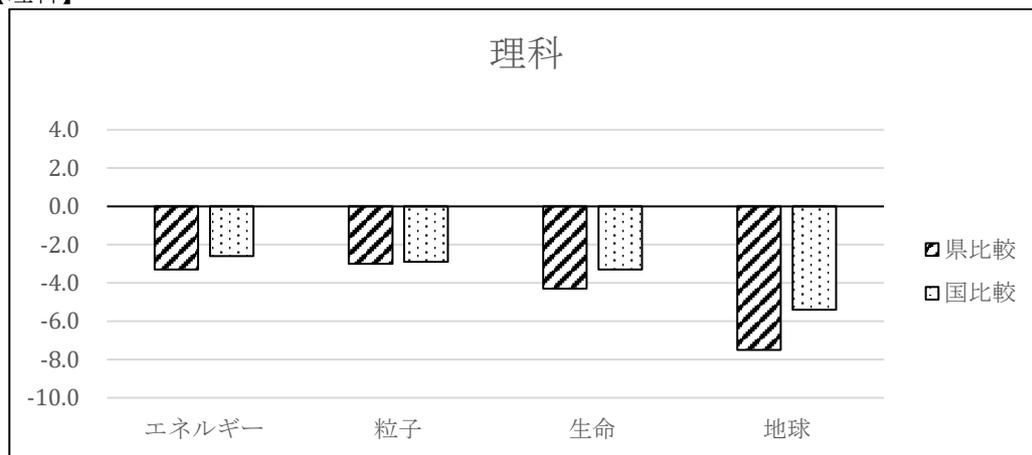
【国語】



【算数】



【理科】



領域別に見ると、国語では、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」(知識及び技能)「C読むこと」(思考力・判断力・表現力等)は、県平均、全国平均ともに上回ったが、「A話すこと・聞くこと」(思考力・判断力・表現力等)「B書くこと」(思考力・判断力・表現力等)は、県平均、全国平均ともに下回った。

算数では、「A数と計算」「Dデータの活用」は、県平均、全国平均を大きく上回っているが、「B図形」「C変化と関係」は、大きく下回っている。

理科では、すべてに領域において、県及び全国平均を上回っていた。

3 問題別正答数と分析 (全国比10ポイント以上差があったもの。ptはポイント)

【国語】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 (一)	【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉の違いを理解する	◎100% (+14.5pt) 同じ音で異なる意味をもつ「機会」と「機械」を区別し、聞き手の誤解を招かないようにしていることを理解している。
1 (二)	【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	◎83.3% (+14.5pt) 友達の意見のよさを伝えることで、認め合いながら話し合いを進めようとしていることを理解している。
2 (一) (1)	「ぼく」の気持ちの説明として適切なものを選択する	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える	◎83.3% (+14.9pt) 複数の叙述を基に、登場人物の気持ちを捉えることができていた。
3 (二)	【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける	▲16.7% (-21.0pt) 島谷さんになりきって書いておらず、普通に島谷さんの文章に対しての感想を書いている。島谷さんになりきってはいるがよさではなく、がんばりたいことについて書いている。

資料1

3 (三) イ	文の中で漢字を使う (はんせい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	▲25.0% (-33.7pt) (誤) 反賛、半成、反成、反口
---------------	---------------------	-----------------------------	-------------------------------------

【算数】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 (1)	1050×4を計算する	被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	▲75% (-17.4pt) (誤) 5000、4600 4204
1 (3)	カップケーキ7個分の値段を、1470÷3で求めることができるわけを書く	示された場面を解釈し、除法で求めることができる	◎91.7% (+15.7pt) 【ゆうとさんの説明】をお手本として、「カップケーキが3列あること」「1470円を3等分すること」について記述できている。
2 (1)	果汁が25%含まれている飲み物の量を基にしたときの、果汁の量の割合を分数で表す	百分率で表された割合を分数で表すことができる	▲58.3% (-12.8pt) (誤) 4/10、25/10 2/5、0.25 割合の意味、割合の表し方について理解できていない。
2 (4)	果汁が30パーセント含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答え方を記述できる	▲33.3% (-14.7pt) 答え(600mL)は求められているが、180mLが30mLの6倍であることを求める式を30×6=180と記述している。割合の求め方(わり算)が理解できていない。
3 (1)	表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く	表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる	◎100% (+24.7pt) 表の各欄と合計の意味を理解して、数量の関係を( )を用いた式や加法や減法の式に表し、正しき計算できている。
3 (4)	1年生の希望をよりかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く	方法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と考え方を記述できる	◎100% (-11.2pt) 表から必要な数値を読み取り、【あかりさんの求め方】をお手本として、かくれんぼのポイント数の求め方を式や言葉で記述できている。
4 (1)	示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる	▲33.3% (-15.5pt) (誤) 左に60度 回転する向きが左あることは理解できているが、正三角形の一つの角の大きさである60度と180度の間にある数量的な関係(120度)が見い出せていない。

資料2

4 (3)	辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶことができる	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している	▲50.0% (-16.5pt) ひし形の意味や性質について理解しているが、回転する角度(45度と180度、135度と180度)の関係について見い出せていない。
4 (4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる	▲41.7% (-15.9pt) (誤)二等辺三角形 「左に60度回転する」「左に120度回転する」の意味が正しく理解できていない。

資料3

## 【理科】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
2 (2)	水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ	メスシリンダーの正しい扱い方を身につけている	▲58.3% (-11.7pt) メスシリンダー内の水の体積47mlを48mlと読み取っている。正しい目盛りの読み方を理解していない。
3 (1)	光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ	日光は直進することを理解している	▲16.7% (-11.1pt) 日光は直進するという性質をもとに、的と鏡と段ボールの板が同一直線状にならなければいけない関係に気づけていない。
3 (3)	鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	◎82.3% (+13.4pt) 「鏡」などの操作する対象物と「向き」などの適切な変更点について解答できていた。
4 (3)	結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる	▲33.3% (-12.2pt) 結果的にいえることの「①冬の晴れた夜は気温が下がる」の根拠について、天気や気温の時間による変化、昼夜を基に、提示された結果を分析して解釈し、自分の考えをもつできていない。
4 (4)	鉄棒に付着していた水筒と氷の粒は、何が変化したものかを書く	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	◎91.7% (+29.7pt) 「空気中」「冷やされて」「水滴」になるという情報から「水蒸気」と解答することができていた。

資料4

#### 4 考察

- ・国語「伝え合いの様子の一部を基に、文章のよさを書く」記述問題では、問題文の意図を正確（必要なことを落とさずに）に捉えて答えることができなかった。（本校正解者は2名）問題文に「あなたが島谷さんなら」とあるので、島谷さんとして、3つの条件を満たした内容を記述しなければならない。無回答（3名）もあった。「書くこと」の楽しさを味わわせるとともに、学年が上がるにつれて、条件に合わせて書くこと（○字以上○字以内、～の言葉を使って、～さんの立場で）に慣れさせていきたい。**資料1**
- ・算数では、「果汁が30パーセント含まれている飲み物に果汁が180ml入っている時の飲み物の量を求める」記述問題では、割合を求める式をかけ算にしている誤答が多かった。（確かめの式と混同している）答えを求めるのに適した式を用いるために、数量関係（もとにする量、くらべる量、割合）を図に表す力、図、式、言葉を使って表現する力を授業の中でつけていく必要がある。また、低学年から、必要な数値、矢印、言葉などを記入しながら自分の考えを表現する「ノートづくり」の指導及び、必要な情報を選択する力もつけていきい。**資料2**
- ・「示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ」問題は、特に正答率が低かった。（－15.9pt）作図など算数的活動の経験不足、手順通りに思考する力に課題があり、図と言葉（説明）を関連づけることができていなかった。算数的活動を充実させ（作図の仕方を多様に考える）、作図の手順からどのような図形ができるのかについて判断したり、作図の仕方（手順）を筋道立てて端的に説明する力（図や表を示しながら算数用語を使って説明する力）をつけていく必要がある。**資料3**
- ・理科「結果からいえることは、提示された結果のどこを分析したものか選ぶ」問題では、「晴れ」は、昼でも夜でもいえると知らない、条件（晴れた夜、下がっている）を読んでいないための誤答が目立った。また、昼は学習の中で実験する（データをとる）が夜は実験することがないことも要因と考えられる。（経験不足）観察・実験する時に、視点をもたせることや結果については言語化し、グラフを指さししながら説明する力をつけていくことが必要である。また、根拠が正しいか検討することも授業の中で取り上げていきたい。低学年から体験的な活動や実験を充実させること、生活体験を結びつけることを積み重ねたい。**資料4**

#### 学習状況調査結果について

##### 1 生活習慣や学習習慣に関する項目について

- 「朝食を食べていますか」
  - ・本校児童は、「している」「どちらかといえばしている」が100%となっている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」
  - ・本校児童は、「している」「どちらかといえばしている」が75%で県（91.5%）全国を（90.4%）を下回っている。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という問いに対しては、「している」「どちらかといえばしている」と回答した児童が88.3%で、県（82.7%）全国（81.5%）で上回っている。家庭と連携して、基本的な生活習慣を確立していきたい。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
  - ・本校児童は、「きちんと守っている」「だいたい守っている」が66.7%で県（70.4%）全国（71.5%）を下回っている。「約束はない」との回答も8.3%もある。トラブルの具体例を提示して、正しい電子メディア機器の使い方について保護者啓発を行い、家庭でルール（「親が一方向的に決めた約束」ではなく、子どもと親の気持ちの合意の上で時間の目安やルールを決める、随時見直しをしていく）を親子で話し合う必要がある。
- 「平日1日あたりどれくらいの時間、ゲーム（通信機器を使ったもの）をしますか」

・本校児童は、「2時間以上」が33.3%で、県(48.7%)全国(50.2%)を大きく下回っている。「1時間未満」と回答している児童も41.7%で、県(24.5%)全国(23.9%)を上回っている。

「平日1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴などをしますか」という問いに対しては、「2時間以上」が41.7%で、県(28.1%)全国(32.5%)を上回っており、本校児童は、ゲームというより、YouTubeなどの動画視聴で通信機器を使っている時間が長いといえる。ゲームも動画視聴も、4時間以上という児童もいる。

通信機器の使い方やメディアとの関わり方について、学級指導や、ノーメディアチャレンジデーの取り組みなどPTAと連携して取り組んでいるところであるが、なかなか改善されず、引き続き、研修や保護者啓発を行っていききたい。

○「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」

・本校児童は、「よくしている」「ときどきしている」が41.7%で、県(71.3%)全国(71.1%)を大きく下回っている。「あまりしていない」「していない」と回答している児童は、58.3%、半数以上にのぼる。勉強を「自分ごと」にするために、自分で目標や計画を立てたり、自分の学びを振り返る経験をさせるなど、望ましい学習習慣を確立させていく必要がある。

○「学校の授業以外に、平日、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか」

・本校児童は、「3時間以上」16.7%、県(5.8%)全国(11.3%)と回答している児童がいる半面、「1時間未満」58.3%の割合(県39.0%全国40.5%)も高い。うち、「まったくしない」25.0%の割合も高い。(県3.6%全国4.2%)「休日、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに対しては、「1時間未満」「まったくしない」が58.3%と割合が高く、平日、休日ともに、県平均、全国平均と比べて、圧倒的に家庭学習の時間が少ないことが言える。また、「家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)」本校児童は、「家族に聞く」83.3%、「自分で調べる」75.0%、「友達に聞く」66.7%と回答している児童が多い。「分からないことがそのままにしている」41.7%は、県(13.8%)全国(11.6%)と比較しても高い。わからなかった時にどんな方法があるのか、解決の方法を教える必要がある。また、家庭学習に取り組めていない個々の原因を把握し、家庭学習の習慣づくりの必要がある。と同時に、家庭学習についても「何をねらうのか」「どんな力をつけるのか」など内容について検討していく必要がある。

## 2 自分に関する項目について

○自分によいところがありますか。

・本校児童は、「当てはまる」58.3%で、県(38.9%)全国(39.4%)を上回っている。学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つける、ほめる、違いを認め合うなどの取り組みを引き続き充実していきたい。一方で、「どちらかといえば当てはまらない」と回答している児童が16.7%ある。自分のよさは他者から認められることで自覚される。周囲の人が「よさ」を褒め、自己肯定感や自己効力感、自己有用感を高める関わり方や声かけをしていきたい。

○「将来の夢や目標をもっていますか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が75%で県(79.6%)全国(79.8%)をやや下回っている。キャリア教育を通して、児童が自分の長所や好きなことをしっかりと見つけ、未来への夢や将来への期待感をもたせ、自分の生き方について前向きに考える学習の充実を図る。(学級活動(2)や道徳の時間の充実、キャリアカウンセリング)また、スモールステップでの目標を立て、その成果を大切に(一日一日のがんばりを振り返るなど)、自分の夢や目標の実現のために努力できる子を育てたい。

○「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が75%で、県(88.2%)全国(87.2%)を下回っている。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」という問いに対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」91.7%で、県(76.2%)全国(72.5%)を大きく上回っている。できた喜びを多く体験させ達成感を得る、結果ではなく努力(課程)をほめる、また、失敗から再び立ち上がる経験をさせるなどして、最後までやり抜く力を育み、やり遂げることで達成感を味わい、次への目標を自ら設定し挑戦していける子を育てたい。

- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が100%である。

### **3 いじめに関する項目や学校生活に関する項目について**

- 「いじめは、どんな理由があってもないこといけないことだと思いますか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」が75.0%で、県(84.4%)全国(83.9%)を下回るが、「どちらかといえば当てはまる」を含めると100%となっている。「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童について、そう答えた理由について把握し、どんな理由があってもいじめは許されないこと、同時に、友達を多面的に理解することやトラブル解決の方法やなどを指導する必要がある。合わせて、児童の心が満たされるよういじめをしない心の環境づくり、仲間づくりを継続していくことが必要である。

### **4 地域・ふるさとに関する項目について**

- 「地域の大人の人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」
  - ・本校児童は、「よくある」が「よくある」16.7%で、県(15.6%)全国(15.1%)を上回っているが、「あまりない」「全くない」と回答している児童の割合が高い。令和2年度、3年度とコロナ禍のために、ゲストティーチャーを招いての学習ができなかったことが原因であると考えられる。「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の問いに対して、66.6%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、地域とのつながりはあるものと考えられる。

### **5 授業・教科の学習等に関する項目について**

- 「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」
  - ・本校児童は、「ほぼ毎日」0%で、県、全国ともに、「週3回以上」と回答している割合が多いが、「月1回以上」と回答している割合が多い。「意見交換する場面でのICT機器の活用では、「週3回以上」33.3%、「自分の考えをまとめ、発表する場面でのICT機器の活用」では、「月1回未満」50.0%と回答した割合が多かった。しかし「学習の中でICT機器を使うのは勉強に役立つか」という問いに対して、「役に立つと思う」「どちらかといえば役に立つと思う」は100%だった。児童一人一人に配備されたタブレット端末を学習の中でさらに積極的に使っていく必要がある。
- 「5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」33.3%で、県(66.6%)全国(68.4%)大きく下回る。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」41.6%で、県(77.7%)全国(74.1%)を大きく下回る。学級活動(話し合い活動)を充実させ、課題について話し合う経験、互いの良さを生かし折り合いをつけながら、合意形成していく経験を多く積み重ねていくことが大切である。
- 「国語の勉強は好きですか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が58.4%で、県(60.8%)全国(59.2%)を下回っている。「国語の授業内容はよくわかりますか」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」91.7%で、県(87.8%)全国(84.0%)を上回っている。
- 「算数の勉強は好きですか」
  - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が66.6%で、県(62.3%)全国(62.5%)を上回っている。「算数の授業の内容はよくわかりますか」では、83.3%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、わかる授業が算数好きにつながっていると考えられる。「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」100%に対して、「学習したことを普段の生活の

中で活用できないか考えますか」の問いに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」58.3%は、県（67.2%）全国（69.3%）を下回る。また、「わからなときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」「問題を解くとき、もっと簡単な方法がないか考えるか」「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか」については、肯定的評価が県平均、全国平均と比べて低い。既習学習をもとに問題を解決していく学習展開を実践し、数学的な見方・考え方を育てるとともに、考える楽しさ、解決する喜び、算数学習の楽しさが実感できる算数学習をめざしたい。また、いろいろな方法の中からいいものを選んだり日常生活と結びつけ、興味をもって取り組む子ども主体の授業改善が必要である。

#### ○「理科の勉強は好きですか」

- ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が66.7%で県（82.5%）全国（79.7%）を下回っている。また、「理科の勉強は大切だと思いますか」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」91.7%と高い。「理科の授業の内容はよくわかりますか」「当てはまる」「どちらかという当てはまる」では、91.7%で、県88.5%全国88.5%を上回っている。しかし、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てているか」「観察や実験の結果からどのようなことがわかったのか考えているか」「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えているか」については、肯定的評価の割合が、県平均、全国平均と比べて低かった。「理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか」では、83.3%の児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しているにもかかわらず、「将来、理科や科学技術にかんする職業につきたいと思いますか」と問いに対しては、肯定的評価は0%だった。児童の好奇心をくすぐり、五感を使って理科のおもしろさや不思議さを知るような授業展開をめざしたい。

### 今後の取り組みについて

#### ○学力向上・授業力向上

- ・授業づくりの基本（発問、板書、ノート指導、机間指導）（学力向上を支える基盤づくり：県教育委員会）について、共通実践し、基礎的・基本的な知識・技能の定着に向けた取り組みを行う。
- ・とっとり学力・学習状況調査の結果（学力分析データ）をもとに、「非認知能力」「学習方略」「主体的・対話的で深い学び」の数値が高い学級（担任）の授業を参観し、指導技術について学び合う。
- ・授業のユニバーサルデザイン化を図り、「わかった・できた」が実感できる授業づくり（全員が1時間の中でねらいを達成できる授業）に努める。（教材の簡素化、ねらいの明確化、的確な発問、思考の可視化）
- ・ICTの活用（教科の中でタブレットで解答、入力する機会を増やし、経験を積む。家庭学習での活用。）
- ・人権教育を中心として、自分自らが課題を見つけ解決していこうとする意識や態度を育てるとともに、全児童を全教員で受け入れ、児童に肯定的な声かけを行い、自己肯定感、自己効力感、自己有用感を育てていく。

#### ○家庭学習の定着と充実

- ・家庭学習に対する意識が低く、学力を支える基盤となる「計画性」「勤勉性」「粘り強く最後までやり抜く力」「継続して学習する力」を育てる必要がある。
- ・「何のために宿題や自主学習に取り組むのか、それを通してどんな力が付くのか等」目的を明確にして児童に伝え、「やらされる」学習から「やりたい」と思える学習に児童の意識を変え、家庭学習の充実と主体的に学ぶ態度を育てる。
- ・取り組み方法や内容（自力のできる内容、量、支援）を具体的に指導し、「自ら学ぶ学習習慣づくり」の定着を図る。
- ・引き続き、湯梨浜町家庭学習の手引き、家庭学習がんばりカードを活用し、家庭生活に戻った時でも、目標に向かって自己管理し学習に向かうことのできる力を育てる。保護者にも家庭学習に関する情報を積極的に発信していく。

#### ○生活習慣の定着と改善

- ・生活アンケート（年3回）、基本的な生活習慣の定着を確立させる。（早寝、早起き、朝ごはん、メディア）自らの生活を見つめ、改善していけるよう、家庭や地域との連携、協力を図る。